

# ここにいて、生かされて、いるんだなと思う。

漫談家 綾小路 きみまるさん



「運命の女性に出会ったような気持ちでしたね」富士河口湖町に移り住んだのは17年前。理想の地を求めて各地を巡る中で、一番魅せられたのが、この町から望む富士山だったといいます。

インタビュー  
漫談家  
**綾小路 きみまるさん**  
Kimimaro Ayano

### プロフィール

昭和25年(1950)鹿児島県に生まれる。拓殖大学在学中よりナイトクラブの専属司会で芸を磨き、卒業後は漫談家を目指して修業を積む。巧みな話術を買われ、かつて有楽町にあった日劇への出演をきっかけに、日本を代表するさまざまな劇場で司会を務める。大物歌手の司会を経て、疲れた中高年にエールを送る独特の漫談を確立。軽妙でユニークな語り口で観客を爆笑の渦に巻き込み、全国の中高年に人気を誇る。漫談のCDはミリオンセラー、著書も大ヒットしている。

梨に移住したのが平成2年です。どこに住もうかと、関東近県をいろいろ見て回っていたんですが、現在自宅のある土地を見に来た時、そこから見える遮るものが何もない日本一の富士山に一目惚れして、すぐに決めました」

それからは、仕事で東京をはじめ各地の舞台に立ち、休みには山梨に帰ってくるという生活。

「暮らし始めた頃はまだ売れる前でしたが、畑を耕し、のんびりと過ごす時間がとても楽しかったですね」と懐かしそうに振り返ります。自宅のリビングから、のんびりと富士山を眺めているのが好きだそうで、「東京にいる時の自分は『必死に生きている』って感じますね。生きていくために戦わなければならないから。でも山梨では『自然の中で生かされている』って思います」と、その口調まで穏やかに感じられます。

### 山梨の水のブランドイメージは、次の時代まで残せる貴重なもの。

大学進学を機に生まれ育った故郷鹿児島を離れて上京したきみまるさん。大学時代からナイトクラブなどで司会を始め、卒業後に漫談の道を歩み出しました。

### 日本一の富士山に一目惚れ。山梨での新しい生活が始まった。

「同じ時間を過ごすなら、景色のいい場所で暮らしたい。そう思って山

### 売れるまで30年、売れて5年。あの頃の気持ちを忘れずにいたい。

新たに始まる2008年。きみまるさんは芸能生活35周年を迎えます。「売れるまでに潜伏期間30年、売

れて5年。売れないつらさがあり、売れない幸せもあり、また売れた喜び

があり。1月20日には35年の集大成ともいえるCDが出るんです。『知らない人に笑われ続けて35年』という

タイトルですが、座右の銘『継続は力なり』をいつも胸に本心にコツコツとやってきましたよ。売れなかった頃はつらいこともありましたが、あの頃の気持ちをもっと忘れないでいたいと思っています」

### 中高年のみなさん、大志を抱け！夢を持って、共に生きましょう。

最後に新年の抱負をうかがうと、「私も二つ年を重ねてもう57歳。60歳もあつという間ですよ」とまづは控えめな言葉が返ってきましたが、やはりそこはきみまるさん。「私は骨董が趣味で古いものが好きなんです

が、やはり人も中高年がいいんです。若い人にも二つ元気がない今、同じ時代を生きる人、特に中高年が元気をだすようにエールを送るのが僕の仕事だと思っています。『山梨の中高年のみなさん、大志を抱け！』。年を取ること可能性が狭まるわけではないんです。私だって50歳を過ぎて初めて売れたんですから。一日一日を心豊かに、夢を持って、共に笑いながら生きていきましょう」と心強い言葉をいただきました。

きみまるさんの口から何度も飛び出す『中高年』という言葉。それはいつも親しみと愛情にあふれ、生きる底力と呼び起こすようなパワーを与えてくれるのだと、あらためて感じました。

「司会業では人を紹介するけれど自分は一生紹介されたいでしょう。自分が紹介されたかったです。そこで、司会の仕事の合間を縫って漫談の勉強をしました。漫談は落語と違って、いつもオリジナルをつくっていかなくてはならないです。でも今はお笑いの世界も変わりましたね。私の時代は舞台が基本でしたが、最近ではテレビが中心になってしまい、何だか寂しい気がしますね。舞台芸も残さないかね」としみじみ語ります。

そして「次の時代に残せるもの」として、「山梨は山や自然が多く、ここに流れる水はとておいしいです。僕は水にこだわるタイプなんです。水は生活に欠かせないもので、良い水はすぐにはつくることができない。おいしい水のある山梨というブランドイメージは、次の時代にもつなげていけるものだと思いますよ」と薦めてくれました。



実家は農家で幼い頃から畑を手伝っていたというきみまるさん。ショップの敷地内には白菜やピーマン、キャベツなどがある畑があり、暇をみつけては土いじりをしているそうです。



蔵造りのオリジナルグッズショップ「るびょうたん」には、CDをはじめきみまるさんがプロデュースした故郷鹿児島県産の焼酎や地元山梨のワインも。一角には趣味で集めている骨董も飾られています。